

## 支部長挨拶

日洋会埼玉県支部長 松井茂樹

本年1月、埼玉県立近代美術館において開催いたしました日洋会埼玉県支部小品展は、皆様の多大なるご協力により、盛会のうちに終了することができました。会期後半には1日100名を超える来場者を迎え、総来場者数は533名にのびりました。ご尽力くださいました会員各位ならびに関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。

さて、本号は埼玉県支部会報の創刊号として発刊する運びとなりました。本来であれば、創刊を記念し、長年日洋会を支えてこられた吉田武功先生のアトリエ訪問記を特集として掲載する予定で準備を進めておりました。しかしながら、誠に痛惜の極みではございますが、吉田武功先生はこのたびご逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表し、先生の長年にわたるご功績に深く感謝申し上げます。

先生は日洋会理事として会の発展に尽力されるとともに、埼玉県支部の精神的支柱として常に私たちを導いてくださいました。制作に対する真摯な姿勢、後進への温かなまなざし、そのすべてが今も私たちの胸に深く刻まれております。

本号では、先生ご逝去の直前に実現したアトリエ訪問の記録を、追悼記事として掲載いたします。在りし日の穏やかなお姿と、制作への揺るぎない情熱を偲びつつ、ご覧いただければ幸いです。

## 【追悼】吉田武功先生を偲んで

— アトリエ訪問記 —



吉田先生は1939年、さいたま市にお生まれになり、塗師祥一郎先生の勧めにより日洋会に入会。以来60年以上にわたり画業を続けられ、理事として会の運営にも尽力されました。後進の育成に心を砕き、多くの会員にとってかけがえのない存在であり続けられました。



アトリエの隅々には、静物、風景、人物と、多彩な作品が整然と並び、長年の画業の積み重ねが静かに息づいておりました。上部の壁には、恩師である塗師祥一郎先生から最後にご指導を受けられた「武甲山」の作品が掲げられ、深い敬意と感謝の念が感じられました。



生前に実現したアトリエ訪問は、埼玉県支部小品展出品の作品をお預かりに伺ったことがきっかけでございました。先生は杖を支えに穏やかな笑顔で迎えてくださいました。アトリエには凜とした空気が漂っていました。

本稿は、生前に伺った貴重なお言葉の一部です。インタビュー記事はお手紙による質問でお答えいただきました。

**1. このアトリエで、特に気に入っている場所はどこですか。**

ライトです。大画面の上下、左右均等に光が当たるよう、何度も調整しました。（吉田先生）  
制作環境に対する徹底した配慮は、先生の誠実な制作態度そのものでした。

**2. 絵を描く上で常に大切にしている心構えは何でしょうか。**

特別な用事がない限り、午前・午後共にアトリエに入ることです。（吉田先生）

日々描き続けること。

その積み重ねこそが作品を生むという、揺るぎない信念がそこにありました。

**3. 制作の途中で迷いや行き詰まりを感じた時、どのようにご自身と向き合っていましたか。**

アトリエを離れ、花木をスケッチしたり、画集をみたりします。（吉田先生）

立ち止まりながらも、絵から離れない。静かな持続の力を感じさせるお言葉でした。

**4. 作品づくりにおいて、特に意識されている点をお聞かせください。**

色のパーセントですが、特に風景はむずかしいですね。（吉田先生）

簡潔な言葉の中に、長年の研究と葛藤がにじみます。

**5. 制作人生の中で転機になった出来事がありましたか。**

友人とヨーロッパの美術館巡りに参加した際、日本人と西洋人の油絵に対する執念の違いを強く感じました。日本人には日本画が向いているのではないかと考えました。（吉田先生）

異文化との対峙が、先生の美術観をさらに深められたことがうかがえます。

**6. 塗師祥一郎先生から受けた忘れられない指導を教えてください。**

わがままはアトリエの中だけ、玄関を出たら社会人。好きな風景と出会ったら、できれば季節を変えて再び訪れよ。山には裏があり、水には深さがある、という言葉が印象に残っています。（吉田先生）

この言葉は、画家である前に一人の社会人であることを忘れないという、先生の生き方そのものでした。

**7. 日洋会支部会員へ期待があればお聞かせください。**

皆さんには個性があると思います。自分で仕上がったと思っても、他人から見ると描きたりない場合があります。仕上がったと思ってからが大切です。（吉田先生）

この一言は、私たち後進への何よりの遺訓となりました。

制作とは才能ではなく、日々の誠実な積み重ねであることを改めて教えられた思いがいたしました。先生が遺してくださった数々のお言葉と作品は、これからも私たちの道標となり続けます。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

## 事業報告 1

### 日洋会埼玉県支部作品研究会

令和7年度日洋展出品作品の研究会を開催し、併せて同時期に開催される県展出品予定作品の講評も行いました。当日は講評係の先生4名と受付関係6名、講評希望者9名が参加しました。人数は多くはありませんでしたが、その分、一人ひとりの作品について時間をかけて丁寧な講評を受けることができ、参加者にとって大変有意義な機会となりました。

今後は、さらに参加者を増やし、研究会の活性化を図っていきたいと考えております。



日時：令和7年3月30日（日）

場所：さいたま市プラザノース

絵画アトリエにて

## 事業報告 2

### 小灘一紀先生を招聘して作品研究会

令和7年6月8日（日）、国立新美術館で開催中の日洋展会場において、埼玉県支部作品研究会を実施しました。本研究会では、日洋展に出品した埼玉県支部会員の作品について、日洋会理事長 小灘一紀先生にご高覧いただき、参加者一人ひとりに対して講評をお願いしました。



場所：

国立新美術館

参加：16名



参加者は、自身の制作意図や課題点を振り返りながら作品と向き合い、構図、色彩、表現方法など多方面から具体的かつ的確なご指導を受けました。改善点や制作上の留意点についても具体的にご指導をいただき、今後の制作に大きく活かされる貴重な研究会となりました。

なお、小灘一紀先生は、令和8年3月1日付文部科学大臣発令により、日本芸術院会員に任命されました。ここに謹んでご報告申し上げるとともに、心よりお慶び申し上げます。

## 事業報告 3

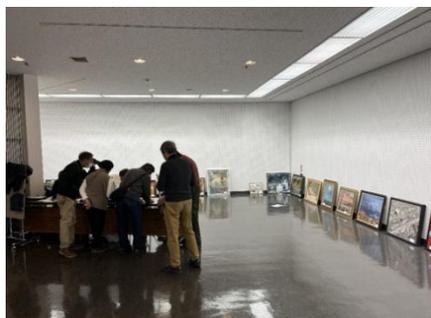
### 日洋会埼玉県支部小品展

令和8年（2026年）1月13日（火）から18日（日）までの6日間、埼玉県立近代美術館において小品展を開催しました。支部として初めての試みとなりましたが、多くの皆様のご協力により成功裏に終わることができました。出品者は32名、6号から20号までの作品を各自2点まで出品する形式で、小品

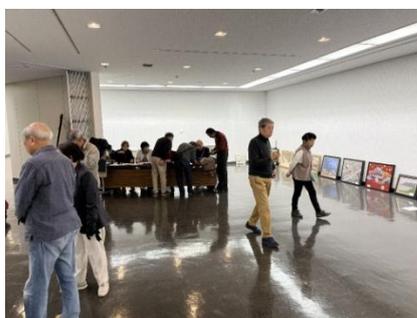
ならではの凝縮された表現やそれぞれの個性が感じられる展示となりました。会期中には533名の方にご来場いただき、支部活動を広く知っていただく良い機会となりました。

日洋会のホームページに小品展の動画が掲載されています。※「日洋会埼玉県支部」と検索してご覧ください。

### 小品展準備・会期中・搬出等の様子



搬入作業の様子



作品配置を検討する会員



展示作業風景



搬入・展示後の講評会が始まる



展示完了後の会場風景



初日を迎えた会場



最終日の来場風景



会期中の様子



片付け・搬出作業

### 編集後記

本号は、埼玉県支部会報の創刊号であると同時に、吉田武功先生を追悼する特別号となりました。創刊の喜びと深い悲しみが重なる中での発行となりましたが、吉田先生が生涯貫かれた「描き続ける姿勢」を私たちが胸に刻み、支部活動をより一層充実させてまいりたいと存じます。

今後とも、会員各位の制作活動がますます実り豊かなものとなり、新たな歩みが広がることを心より願っております。

(支部長) 松井茂樹

(広報) 黒政幸義、山崎義孝